

礼拝における所作と動作
～聖書とのつながりを中心に～



司祭 ヨハネ 井田 泉

奈良基督教会修養会

2016年6月12日

聖霊降臨後第4主日

1. ひざまずく【礼拝堂に来たとき】【懺悔】

○聖公会の礼拝の習慣として、わたしたちは礼拝に来たらまずひざまずいて黙禱する。これは旧約聖書の中に見られる祈りの姿。

詩編 95:6「わたしたちを造られた方／主の御前にひざまずこう。共にひれ伏し、伏し拝もう。」

祈禱書 20 頁「身を低くして伏し拝み || 造り主、主のみ前にひざまずこう」

○聖書の中の具体的な場面を思い浮かべ、そこにこめられている姿勢や祈りをくみ取りたい。それをとおして、わたしたちの礼拝の所作・動作の中に思いを深めたい。

マタイ 17:14「一同が群衆のところへ行くと、ある人がイエスに近寄り、ひざまずいて、15 言った。「主よ、息子を憐れんでください。てんかんでひどく苦しんでいます。度々火の中や水の中に倒れるのです。」

○懇願の気持ちがこめられている。自分の抱えている嘆きや求めを聞いていただく。

ルカ 22:41「そして自分（イエス）は、石を投げて届くほどの

所に離れ、ひざまずいてこう祈られた。42 「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」

○イエスご自身が最も厳しい危機の時、ゲッセマネの祈りにおいてひざまずいて祈られた。

使徒言行録 7:60 「それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。

2. 立つ【祈る】【信仰告白（ニケヤ信経）】

マルコ 11:25 「また、立って祈るとき、だれかに対して何か恨みに思うことがあれば、赦してあげなさい。」

ルカ 6:8 「イエスは彼らの考えを見抜いて、手の萎えた人に、『立って、真ん中に出なさい』と言われた。その人は身を起こして立った。」

○しっかりと神（主イエス）の前に出る姿。

信経と一緒にしっかりと唱えることによって、神の救いのわざの一つ一つに触れ、共に力づけられる。声と心を合わせる。

ヨハネ 19:25 「イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、

クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。」

○深い悲しみと中でもけっして悪の力に屈しない。

ヨハネ 21:4 「既に夜が明けたころ、イエスが岸に立っておられた。」

○復活の主は、弟子たちを気遣い、朝食を用意される。

3. 座る（着席する）

ルカ 2:46 「三日の後、イエスが神殿の境内で学者たちの真ん中に座り、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。」 イエス 12 歳

マルコ 3:32 「大勢の人が、イエスの周りに座っていた。」

○イエスの話に耳を傾けて一緒に聞いている姿。

ルカ 22:14 「時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。 15 イエスは言われた。『苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。』」

○食卓を囲んで座る。最後の晩餐。聖餐式はこれの再現。

使徒 2:2 「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こ

え、彼らが座っていた家中に響いた。」

○聖霊降臨の出来事。共にみ言葉に耳を傾け、祈っていた。

4. あいさつを交わす【平和の挨拶】

「主の平和」

ルカ 24:36 「こういうことを話していると、イエス御自身が彼らの真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」

ヨハネ 20:19 「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われた。」

握手／手を差し出す——和解と一致・連帯の表現

使徒言行録 2:9 「また、彼らはわたし（パウロ）に与えられた恵みを認め、ヤコブとケファとヨハネ、つまり柱と目されるおもだった人たちは、わたしとバルナバに一致のしるしとして右手を差し出しました。」

5. 黙祷する【感謝聖別の後】

詩編 62:6 「わたしの魂よ、沈黙して、ただ神に向かえ。神にのみ、わたしは希望をおいている。」

○ひたすら神に向かう姿勢。

6. パンを裂く【司祭・陪餐前】

マルコ 6:41 「イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで賛美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。」

ルカ 24:30 「一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。」

○エマオでの夕食。最後の晩餐がここによみがえる。

7. 陪餐する【受け取って飲食する】

マタイ 26:26 「取って食べなさい。これはわたしの体である。

27 また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。28 これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。」

○わたしに向かってわたしのために差し出されたキリストご自身を受け取ることを大切に。

○謙遜に、しかし喜びと感謝をもってキリストの命をいただく。過度に緊張しないでよい。平和。安らぎ。慰めと力づけ。キリストの命がわたしの命となり、キリストの喜びがわたしたちの喜びとなる。

8. 会衆を祝福する【主教・司祭】

○神の、主イエスの祝福を司祭は伝達する。

ルカ 24:50「イエスは、そこから彼らをベタニアの辺りまで連れて行き、手を上げて祝福された。51 そして、祝福しながら彼らを離れ、天に上げられた。」

○アロンの祝福（結婚式に用いる）

民数記 6:24「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。25 主が御顔を向けてあなたを照らし／あなたに恵みを与えられるように。26 主が御顔をあなたに向けて／あなたに平安を賜るように。」

9. 立って唱和を用いる

○ここでわたしたちはしっかり立ち上がる（自覚と決意をもって）。神がわたしたちを聖餐をもって愛と命を注ぎ、使命

を託してわたしたちをこの世界に派遣される。

派遣の唱和（呼びかけ——応答がいのち！ 顔を上げる）

執事または司祭 ハレルヤ、主とともに行きましょう

会衆 ハレルヤ、主のみ名によって アーメン

10. 十字を切る

十字架は（1）イエスがわたしたちを招かれる姿

（2）わたしたちが弱っていてもしっかりと立っていてくださる姿

（3）わたしたちを引き受けていてくださる姿

○十字を切ることによってこのイエス・キリストをわがうちに受け入れ、刻む。

○父と子と——額からからみぞおち付近へ（天から地へ。降誕・受肉を象徴）

聖霊のみ名によって——左胸から右胸に。わたしの内へ。
（また世界への広がりをこめることもできる）

○いつ切るか？ （例）

- ・ 赦罪（ゆるしの祈り）
- ・ 陪餐
- ・ 祝福